

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業知っておきたい話」—145回—(2面)
- ・農作業中の熱中症に要注意(3面)
- ・薩州開拓農協肉牛共進会(4面)
- ・齋藤さん(栃木)のトマトがダブル入賞(5面)
- ・家畜改良増殖目標(乳用牛・豚)(6面)
- ・家畜改良増殖目標(肉用牛)(7面)
- ・畜産物需給見通し(8面)

開拓情報

発行所
公益社団法人全国開拓振興協会
〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10
TEL 03-6268-9995
FAX 03-6268-9996
ホームページ <https://www.kaitakusya.or.jp>
全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

連盟・振興協会が総会開催

開拓青年部が参加

全日本開拓者連盟

全日本開拓者連盟の第80回通常総会が6月11日、東京・ルポール麹町で開催された。今年、開拓青年部副部長の大塚氏(栃木)と甲斐氏(島根)も参加した。

基本に、次の農政運動を展開する。

- ①畜産・酪農の経営安定対策と生産基盤の拡充
- ・強化運動②牛肉・豚肉・牛乳乳製品等国産畜産物の適正な価格転嫁による消費拡大運動③自然災害による被害からの早期復興と経営再建安定化運動④政治活動への支援運動⑤開拓営農振興のため

開拓営農振興事業の充実

全国開拓振興協会

(公社)全国開拓振興協会は連盟に続き、第13回定時総会を開催した。西谷会長の開会挨拶(2面に要旨)の後、議事に入り、上程された4議案は全て承認された。25年度の開拓営農振興事業は、昨年度と同額の予算を確保し、会員が選択して実施する開拓営農支援対策、開拓営農推進対策及び開拓営農支援強化対策に対して助成し、将来に向けて足腰の強い開拓営農、開拓農家を育成する。



上：全日本開拓者連盟、下：全国開拓振興協会



開拓青年部大塚副部長

また、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の改正により、新たに外部役員を設置する必要があるため、理事の定数を9名以内から10名以内とするなどの、定款の一部変更を行った。

農業危機を訴える

開拓三団体が農水省に要請活動



左から大塚氏、甲斐氏、山本政務官、菊地氏、西谷氏、黒岩氏

全日本開拓者連盟は総会後、農水省に畜産・酪農政策並びに予算に関する要請活動を行った。菊地委員長、西谷振興協会会長、黒岩全開連副会長ら開拓中央三団体の役員と、今年、開拓青年部の大塚・甲斐両副部長も参加し、農水省の山本佐和子農林水産大臣政務官に要請書を手渡した。

要請事項は①国内畜産・酪農の経営安定対策と生産基盤の拡充・強化②畜産関連補助事業の拡充・強化③適正な価格形成と理解醸成対策④自然災害等、疲弊した畜産・酪農経営の復興・再建対策の継続⑤国際貿易協定の発効に伴う関連対策の拡充・強化⑥環境・衛生対策等関連諸対策の拡充・強化⑦生産現場の実情把握の強化、の7項目。要請の中で大塚副部長は「農業をやっても儲からない。従って、子どもたちには継がせられない。この負のスパイラルがあり、食料を誰も作らなくなるという危機感を訴えた。これに対し山本政務官は「この度、基本計画が新しくなり、毎年検証しながら、より良い農業を目指していく」と述べた。

今回の特集は、①新たな食料・農業・農村基本計画の策定、②合理的な価格の形成のための取り組みを推進、③スマート農業技術の活用と今後の展望、の3項目からなっている。

トピックスは、▼農林水産物・食品の輸出促進▼みどりの食料システム戦略の進展と消費者の行動変容、▼女性活躍の推進、▼農福連携の更なる推進、▼24年能登半島地震。同白書は、農水省ホームページで閲覧できる。

食料・農業・農村白書公表

24年度

24年度の「食料・農業・農村白書」が5月30日に公表された。

今回の特集は、①新たな食料・農業・農村基本計画の策定、②合理的な価格の形成のための取り組みを推進、③スマート農業技術の活用と今後の展望、の3項目からなっている。

トピックスは、▼農林水産物・食品の輸出促進▼みどりの食料システム戦略の進展と消費者の行動変容、▼女性活躍の推進、▼農福連携の更なる推進、▼24年能登半島地震。同白書は、農水省ホームページで閲覧できる。

新しい農相に小泉氏

米担当大臣という思いで

石破茂首相は5月21日、辞任した江藤拓農水大臣の後任として、自民党農林部会長を務めた小泉進次郎元環境相を起用した。

小泉氏は、関東学院大学経済学部を卒業後、米力防衛として初入閣した。農林部会長時代は、農業の規制改革や、農協改革に取り組んだ。

就任後は、米担当大臣という思いで、米価高騰対策に奮闘している。

オホーツクに春を告げるチューリップ



北海道の道東にある湧別町は、オホーツク海に面し、またサロマ湖の西側に位置している。

写真は「かみゆうべつチューリップ公園」の様子で、7haの敷地に70万本のチューリップが咲き誇っている。

湧別町は開拓地が多く、現在も肉牛や酪農などが盛んに営まれている。また、明治からの屯田兵により拓かれた土地も多く存在する。

1957年から10年ほど続いたチューリップ生産で、農家に愛着が生まれ、引き継がれている。毎年5月にフェアが開催され、道東の遅い春を彩っている。

本紙は無償で提供しています。
ご希望の方はお知らせ下さい。



食料・農業 知っておきたい話 第145回 目指す方向を明確にせずして 酪農・乳業の未来なし 上

東京大学大学院特任教授・名誉教授 鈴木宣弘氏

稲作だけではない。全国を回っていて、一番急速に酪農が加速しているのが酪農だ。今、頑張っている酪農家さんは希望の光だ。支え合う仕組みの強化が不可欠だ。

★財政当局の意向を反映した「基本法」の基本姿勢

まず、財政当局の意向そのままの農政の基本方向を確認しておきたい。

①食料自給率は重要な指標とはしない。自給率向上に予算を投入するのは非効率だから、できるかぎり輸入を増やす。

②農業に予算をかけてきたが、農家も減り、農村も疲弊している。潰れるほうが悪い。

③農家が激減すること前提に考え、農業・農村にこれ以上の予算は投入しない。

入らない。スマート農業と輸出で企業などが儲かる。酪農が加速しているのを見通しは明白な中で、6割も輸入に頼っている日本は、何をすべきか。

④その代わり、有事には、支援でなく、罰金で脅して強制的に増産してもらう。

⑤価格転嫁政策は無理だ。たとわかつたので「努力義務」「コスト指標」などでお茶を濁す。

このように、国民の命を守る食料、それを生み出す農業振興こそが「国防」であることが忘れられ、日本の地域社会の崩壊も顧みず、一部の利益のみが効率であるかのような方向性が示され、現状認識、危機認識の欠如と言わざるを得ない。

★5年後の生乳生産目標730万tの意味

お金を出せばいつでも安く輸入できる時代は終わった。しかも、今後の国際乳製品需給は、新興国の需要増加に対して供給力が追いつかない逼迫の見通しが明白な中で、6割も輸入に頼っている日本は、何をすべきか。

国産は、圧倒的に足りていないのだから、総力を挙げて、生乳を増産し、輸入を国産に置き換えていくことが求められる。そのためには、生産抑制という選択肢はない、増産のみである。

それなのに、乳牛の飼養頭数は減少を見込み、生乳生産は現状維持、飼料自給率も現状維持、といった「何もしない」方針が出されている。

★これ以上の生産基盤の弱体化は業界全体の崩壊、生産調整から出口調整へ

もう限界だし、そんなことをしている場合ではない。乳製品の6割、チ

不足と過剰への場当たり的な対応を要請され、酪農家は翻弄され、疲弊してきた歴史をもう繰り返してはならない。酪農家が限界にきている。牛は水道の蛇口でない。時間のズレが生じて、生産調整は必ずチグハグになる。

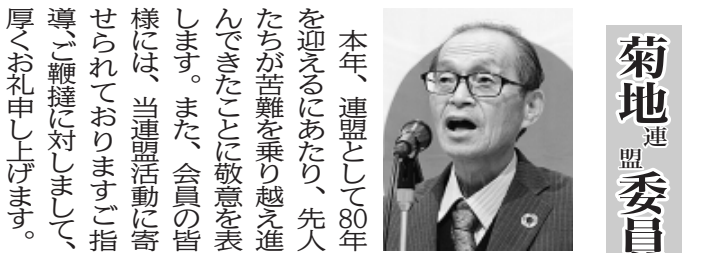
お金を出せばいつでも安く輸入できる時代は終わった。国産振興せずして、国民の命も守れない。なのに、生産調整に協力しない補助金を出さないとか、そんなことではない。自由

25年度 地域別生乳生産量の見通し (千t: %)						
	全 国		北海道		都府県	
	前年比		前年比		前年比	
上 期	3,730	101.2	2,186	102.6	1,544	99.3
下 期	3,605	97.7	2,095	98.2	1,510	97.1
年度計	7,335	99.5	4,282	100.4	3,053	98.2

全国的な生乳生産量は、前回見通し(1月)より4万7千t多い733万5千t(前年比100.5%)となっている(表)。

乳用雌牛の頭数について、2歳未満頭数(3月時点)は、北海道で約7千頭増加する一方、都府県で約2千頭減少する見通し。搾乳牛となる2歳以上頭数は、北海道で約1万頭、都府県で約1万8千頭減少する見通し。

24年度の乳用雌牛出生頭数実績は、北海道は前年比105.8%、都府



菊地 連 委員長総会挨拶

日本経済は、コロナ禍からの行動制限の緩和措置以降、個人消費やインバウンドの増加等もあり、景気は回復基調にあるものの、長引く円安や混迷を深める国際競争の影響も重なり、諸資材価格や主食米等の高騰から、国民の暮らしは非常に厳しくなっています。

我々農業者にとっても、生産原価の上昇や、不安定な販売価格が、依

然として経営を圧迫しております。

政府は、「食料・農業・農村基本法」の見直しにより、食料安全保障の確立を最重要課題とし、国内農業生産の拡大を基本理念の一つに掲げており、食料の安定供給の確保、農業の持続的発展、農村の振興、多面的機能の発揮を図るべく、主要政策の見直しの方向性を示しております。

その中で、当連盟も組合員の「開拓営農の持続的発展」と「経営安定政

策」の実現を念頭に、活動を進めてまいります。

我々全国の開拓者が、その土地に根ざした健全な農業経営の確立と、地域の活性化を推進するため、共に闘おうではありませんか。

我が国農業を巡る諸情勢と諸問題を分析・検討し、25年度の運動方針を提案します。

今総会に提案する運動方針の実現に向け、開拓組織が一丸となつて取り組んで行きますよう、節にお願ひ申し上げます。

西谷 振興 会長総会挨拶

我が国農業を取り巻く状況は、昨今の日本食ブームなどを反映して、インバウンドの急激な回復や農畜産物の輸出が順調に伸びる一方で、農業従事者の減少と高齢化には歯止めが掛かっていません。先ごろ農林水

産省が発表した24年度の「食料・農業・農村白書」によれば、基幹的農業従事者数はこの20年間で半減し、その平均年齢は69・2歳と、高齢化が一段と進行していると報告しています。

また、農畜産物価格が低迷する中で、輸入価格の高止まりによる生産資材価格の高騰などが続いている。依然としてこれらが経営を大きく圧迫している状況にあります。

今後の我が国農業の行方は、近年の不安定な経済・金融情勢やアメリカの関税政策の先行き不透明感などもあり、予断を許さない状況ですが、新たな基本計画の下で実施される施策に期待しつつも、我々もそれに対してできる限りの努力を払っていく必要があると考えています。

当協会ではこれまで、会員の皆様とともに手を携え、開拓営農の振興、発展のため各般の取り組みを進めてまいりました。

25年度におきましても、おおむね前年度並みの収益を確保できるものと見込んでいますが、農畜産業が厳しい経営環境にある今こそ、経営基盤の強化を図り、将来に向けて足腰の強い開拓農家、開拓営農を育てていくことが何より重要であると考えています。

このため、本年度も開拓営農振興事業関係の予算を前年度並みに確保し、会員、開拓農家を支援してまいります。

全開連人事 (6月1日付)

7月

4日 全開連東日本業務担当者会議(栃木)

全開連九州地区生産指導担当者会議(佐賀)

11日 全日本開拓者連盟 開拓青年部役員会

17日 全開連理事会

全日本開拓者連盟 中央常任委員会

18日 ゆづき青森農協畜産共進会

生乳生産量 2年振りの減少へ

Jミルク 乳用雌牛の出生頭数は増加傾向

Jミルクは5月30日、25年度の生乳及び牛乳乳製品の需給について、2回目の見通しを発表した。

全国の生乳生産量は、前回見通し(1月)より4万7千t多い733万5千t(前年比100.5%)となっている(表)。

乳用雌牛の頭数について、2歳未満頭数(3月時点)は、北海道で約7千頭増加する一方、都府県で約2千頭減少する見通し。搾乳牛となる2歳以上頭数は、北海道で約1万頭、都府県で約1万8千頭減少する見通し。

24年度の乳用雌牛出生頭数実績は、北海道は前年比105.8%、都府

25年6月には乳製品向け乳価、8月には飲用等向け乳価の引き上げが予定されており、酪農経営の収支改善への効果が期待されるが、乳価改定に伴う牛乳乳製品の値上げによって、牛乳類の消費減退も予想される。

需要を拡大していくためには、これまで以上に積極的な取り組みが必要となる。

25年度6月には乳製品向け乳価、8月には飲用等向け乳価の引き上げが予定されており、酪農経営の収支改善への効果が期待されるが、乳価改定に伴う牛乳乳製品の値上げによって、牛乳類の消費減退も予想される。

需要を拡大していくためには、これまで以上に積極的な取り組みが必要となる。

25年度6月には乳製品向け乳価、8月には飲用等向け乳価の引き上げが予定されており、酪農経営の収支改善への効果が期待されるが、乳価改定に伴う牛乳乳製品の値上げによって、牛乳類の消費減退も予想される。

需要を拡大していくためには、これまで以上に積極的な取り組みが必要となる。

25年度6月には乳製品向け乳価、8月には飲用等向け乳価の引き上げが予定されており、酪農経営の収支改善への効果が期待されるが、乳価改定に伴う牛乳乳製品の値上げによって、牛乳類の消費減退も予想される。

需要を拡大していくためには、これまで以上に積極的な取り組みが必要となる。

図1 重篤化を防止するための措置の実施手順の周知の例

熱中症になった時の応急処置

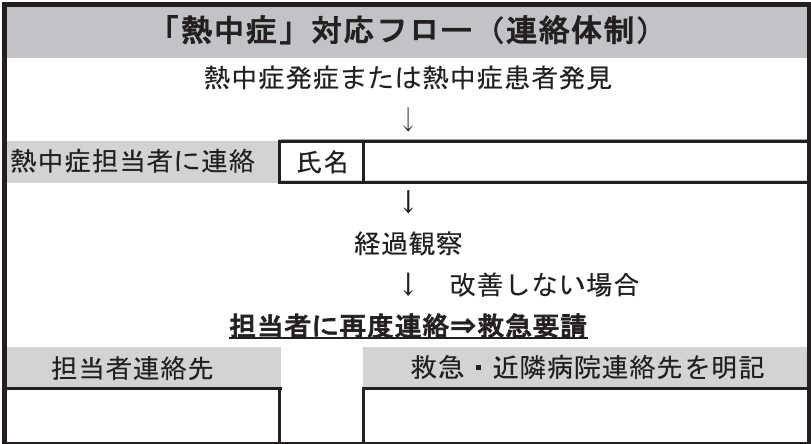
①無理はせず作業を中断！

②涼しい環境へ避難！
水分・塩分補給！

③後悔する前に119番！

(農水省の資料を元に作成)

図2 「熱中症」対応フローの例



(農水省の資料を元に作成)

熱中症対策を法制化

緊急時の備えが義務化

農水省は4月30日、ホムページに農作業安全が推奨される。プレクーリングに関する「25年度熱中症対策研修テキスト」を掲載した。

熱中症対策の義務化が法制化されたため、周知すべき対策の内容等を紹介している。

◆周知する対策の内容

熱中症対策として取り組むべき内容は、同省のテキストに紹介されており、熱中症対策の研修の際などでの活用が推奨されている。

◆農作業中の対策

高温下での長時間の作業は避ける。また、のどが渇いていなくても、必ず20分おきにコップ1〜2杯以上を目安に水分・塩分補給を行う。塩分(ナトリウム)などの電解質

【農作業前の対策】

農作業前の対策として

病院への3点を徹底する。

先に記述した熱中症対策と共に作業安全に周知するほか、図1のよう

に張り紙にして注意喚起することも重要となる。

また、同テキストの周知だけでなく、可能な限り熱中症対策セミナーなどにも参加する。

◆農業団体等に熱中症対策が義務化

6月1日から、「労働安全衛生規則（厚労省令）」が改正され、労働者の熱中症対策が義務化された。

改正の対象となる事業主には、労働者を雇用する農業者や農業法人も含まれる。農業者等に対して、熱中症を発症した際に迅速に対応できるよ

【熱中症になった時の応急処置】
①作業の中断②涼しい場所への避難などの応急処置③良くならない場合は迅速に対応できるよ

主食用米の生産量40万t増加へ

25年産 水田作物の作付け意向調査(4月末)

農水省は5月23日、水田作物の作付け意向調査(4月末時点)の結果を発表した。

主食用米の作付け意向が131・7万haと、前年より5・8万ha増加している。また、25年1月末の意向と比べても3・5万haの増加となった。

さらに、25年産米の備蓄米買入れ入札を当面中止していることから、備蓄米用だった1・7万haと合わせると133・4万ha(対前年7・5万ha

増)となる。これは、平年単収(539kg/10a)で生産量を計算すると、719万tで、対前年40万tの増加に相当する。都道府県別にみると、「増加傾向」が34道県となり、1月末時点での19道県と比べても大幅な増加となった。今回は、静岡・長野など中部地方、島根・広島など中国地方、福岡・熊本など九州地方が「増加傾向」となった。反対に、加工用米・飼料用米などの戦略作物は、

我々の分身ともいえる開拓地

鳥取県江府町・笠良原開拓



鳥取県江府町の笠良原開拓は、大山の南麓に位置し、岡山県に接している。標高約7〜800mで、本谷と細谷に挟まれた細長い台地にある。大山隠岐国立公園内にあり、景観が美しい山里

であるが、土地は大山特有の火山灰土で土質が悪く、厳しい状況が続いた。51年には、共同経営者の出光興産が撤退してしまいい、更なる苦境に立たされることとなった。その後、相次いで離農する家族が増え、4戸だけが残った4家族は、大根を始めとする野菜栽培、養蚕、和牛飼育、花木栽培へと取り組み、この地を守ってきた。

食料作物が主体であったが、より収益性の高いものに挑戦するようになった。悪条件を、努力によって好条件に変革させてきた。

ところが2005年、奥大山の天然水を求めてモ・ジャガイモ・大豆しかサントリイ(株)が進出してを基に作成した。

07年、開拓60周年の節目に当たり「笠良原開拓魂」が未来永劫人々の心に残ることを願い、開拓の歴史を記した記念碑が建てられた。

牛肉仕入価格は上昇傾向

25年度上半期 食肉販売動向調査

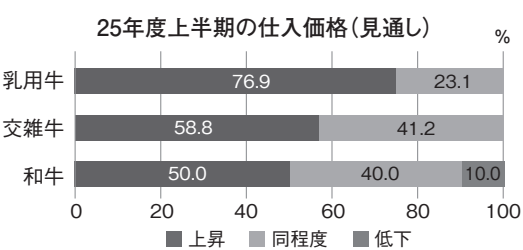
(独)農畜産業振興機構は5月9日、25年度上半期の食肉販売動向調査結果を発表した。

24年度下半期の実績で「上昇」と回答した割合よりも、乳用牛が7・7%、和牛が10・0%それぞれ増加し、交雑牛が同等となっている。

量販店の販売量は、前期との比較で、和牛は増加との回答が多かった一方、乳用牛は減少が多かった。交雑牛は「同程度」が最も多かった。

水田の主な作付け状況 (万ha)			
	主食用	飼料用	WCS用
21年産	130.3	11.6	4.4
22年産	125.1	14.2	4.8
23年産	124.2	13.4	5.3
24年産	125.9	9.9	5.6
25年産(1月末時)	128.2	8.5	5.7
25年産(4月末時)	131.7	6.7	5.3
対前年差	5.8	▲3.2	▲0.3

(農水省資料より)



■ 上昇 ■ 同程度 ■ 低下

最優秀賞

交雑種 久保農場
黒毛和種 谷村畜産
薩州開拓農協肉牛共進会

薩州開拓農協は5月16日、熊本県錦町のゼンカイミート(株)及びひみつ基地ミュージアムで、第15回肉牛共進会を開催した。今回は、交雑種の部(去勢12頭、雌6頭)、黒毛和種の部(去勢4頭、雌8頭)が出品された。

審査委員長は「脂肪交雑が充実して肉色に光沢があり、脂肪も優れている」と講評した。

格付・審査の結果、最優秀賞は、交雑種の部が久保農場(合)、黒毛和種の部が(株)谷村畜産の出品牛がそれぞれ受賞した。



最優秀賞交雑種の部：久保さん(上)、黒毛和種の部：谷村さん

交雑は周囲筋まで入って完成度が高い」とした。黒毛和種の部全体の成績は、平均枝肉重量が545・7kg(去勢560・9kg、雌538・1kg)、全頭A5だった。各測定値の平均は、ロース芯面積85・8cm²、バラ厚9・5cm、BMS No.11・8、歩留基準値77・7だった。入賞牛の出品者は次のとおり。

肉質3等級以上比率77・8%、4等級以上比率55・6%。各測定値の平均は、ロース芯面積55・1cm²、バラ厚7・9cm、BMS No.4・8、歩留基準値69・8だった。

黒毛和種の部最優秀賞の牛は生後30・4カ月齢の去勢で、父「夏百合」母の父「安福久」・祖母の父「百合茂」、枝肉付A5。

審査講評は「肉色は鮮紅色できめ細かく、脂肪

25年度 堆肥の困りごと相談に乗ります
「畜産堆肥流通体制支援事業」実施中

(一財)畜産環境整備機構は5月15日、「畜産堆肥流通体制支援事業」の取り組みに当たって情報を公開した。同事業は農水省による補助事業で、同機構が無料で畜産農家などの堆肥問題について、現地調査や相談を受け付けるもの。

①堆肥がうまく熟成できず、耕種農家への販売などが難しい②耕種農家などのような堆肥を好むか分からない③堆肥の製造コストが高く、販売しても赤字になる④遠距離の耕種農家に堆肥を流通

畜産堆肥流通体制支援事業の申し込みはこちらから



消費者の77%が農業バイトに興味

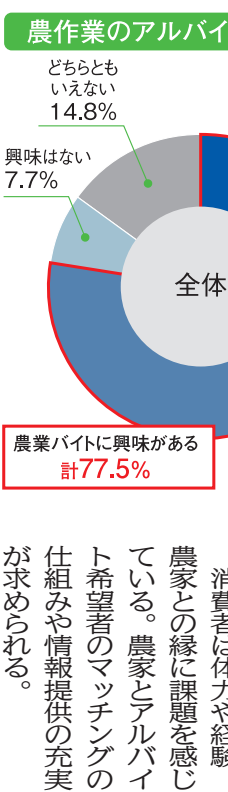
体力・経験が課題

マイナビ農業は5月21日、「農業バイトの現状と意識調査」の結果を公表した。農家697人、消費者1936人から回答を得た。

▽「農業バイトへの関心度」は、図のとおり。消費者の77・5%が、「興味がありアルバイトをしたことがある」が16・3%、「興味はあるが経験はない」が61・2%、「興味はない」が7・7%、「どちらともいえない」が14・8%。

▽「農業バイトへの関心度」は、図のとおり。消費者の77・5%が、「興味がありアルバイトをしたことがある」が16・3%、「興味はあるが経験はない」が61・2%、「興味はない」が7・7%、「どちらともいえない」が14・8%。

▽「農業バイトへの関心度」は、図のとおり。消費者の77・5%が、「興味がありアルバイトをしたことがある」が16・3%、「興味はあるが経験はない」が61・2%、「興味はない」が7・7%、「どちらともいえない」が14・8%。



石田さんの

おいしい! 畜産全開レシピ

今回は、「石田さん」

のスペアリブのコーラ煮を紹介する。炭酸の効果で肉が柔らかくジューシーになる。長時間煮込むとコーラ特有の香りは無くなり、甘辛くスパイスが少し効いた仕上がりになる。

☆作り方
①豚スペアリブは塩・粗びき黒こしょうをすり込み5分程置く

②フライパンを中火で熱しオリーブオイルを入れ、豚肉を焼く

③アクが出なくなったらAを加え、落とし蓋をする

～スペアリブのコーラ煮 材料(2～3人分)～

・豚スペアリブ	500g
・コーラ	500ml
・塩	少々
・粗びき黒こしょう	少々
・オリーブオイル(サラダ油)	適量
・しょうゆ	大さじ3
・酒	大さじ2
・みりん	大さじ1
・おろしにんにく	小さじ2

焼き色が付いたら裏返し、両面焼けたらコーラを注ぐ。アクが出てきたら丁寧にくる



鍋の大きさに合わせて、穴ができるように切り込みを入れて作る

栄養コメント



★豚肉について

豚肉はビタミンB群を豊富に含んでいます。ビタミンB群はエネルギー代謝を高め、疲労回復に効果があります。さらに、アルコールの分解を助ける働きもあるため、普段飲酒量が多い人は積極的に摂取すると良いでしょう。

玉ねぎやニンニクなど、リシンを含む食材と一緒に食べると効果が望ましいです!

玉ねぎやニンニクなど、リシンを含む食材と一緒に食べると効果が望ましいです!

齋藤さん(栃木)のトマトがダブル入賞 第4回全国トマト選手権

(一社)日本野菜ソムリエ協会は4月9日、「第4回全国トマト選手権」を開催した。栃木県開拓農協組合員の齋藤剛一さん(芳賀町)が「ラージ部門」と「ミディアム部門」でそれぞれ入賞を果たした。

同選手権は農産物の価値向上を目指す青果物の品評会イベントで、ラージ部門とミディアム部門の2部門がある。全国各地の産地から、ラージ部門は42品、ミディアム部門には48品の応募があった。審査に当たっては、商品名や産地・生産者情報などをすべて伏せ、評価員である30名の野菜ソムリエたちが、そのおいしさを食味のみで審査し、評価員全員の合計点数によって各賞が選定された。

齋藤さんは「しぼりトマト」を出品し、両部門で見事「入賞」となった。



自慢のトマトと齋藤さん

同農協によると、齋藤さんの「しぼりトマト」は2月中旬から5月中旬ごろまで県内の一部スーパーやふるさと納税の返礼品などとして購入できるそうだ。

野菜・果実ともに卸売数量減 24年青果物卸売市場調査結果

農水省は4月30日、「青果物卸売市場調査結果(24年年間計及び月別)」を公表した。

24年の青果物卸売市場における野菜の卸売数量は817万tで、キャベツやタマネギ等の卸売数量の減少により、前年に比べ4%減少した。卸売価額は2兆1688億円で、キャベツやキュウリなどの卸売価額の上昇により、7%増加

図1 野菜の卸売数量及び卸売価格の推移(全国)

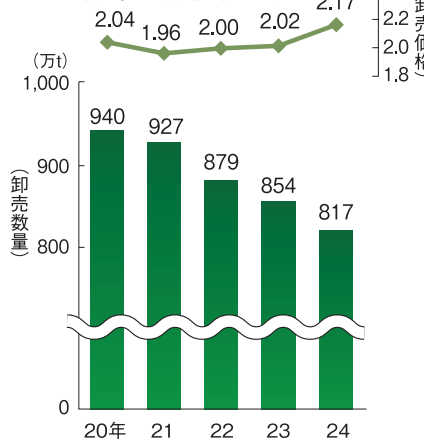
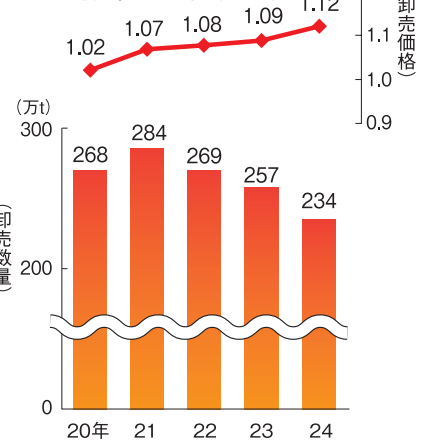


図2 果実の卸売数量及び卸売価格の推移(全国)



4月30日に農水省が公表した「24年産指定野菜(春野菜、夏秋野菜等)の作付面積、収穫量及び出荷量」によると、全国の収穫量は前年産に比べ、春野菜は4%減、夏秋野菜は2%減、タマネギは7%減となった。

【春野菜】

作付面積は3万2900haで、前年産より700ha(2%)減少した。収穫量は7万2000t(4%)減の177万2000t、出荷量は6万5000t(4%)減の165万1000tだった。

春・夏秋野菜、タマネギ減少続く 24年産指定野菜収穫量

10品目の収穫量をみると、春ハクサイと冬春ピーマン以外の8品目が減少している。減少率が最も大きかったのは春夏ニンジンで、3月の低温と4月の日照不足などで肥大が抑制され、9%減少している。

【夏秋野菜】

作付面積は5万7200haで、前年産より1900ha(3%)減少した。収穫量は

現役搾乳牛が千葉ポート参上 6月牛乳月間 ミルクフェスティバル2025

千葉県酪農農業協同組合連合会(千葉県酪農農業協同組合が会員)と千葉県牛乳普及協会は、5月31日～6月1日の2日間、千葉ポートパークにおいて「ミルクフェスティバル2025」を開催した。初日はあいにくの雨にもかかわらず300名以上が来場した。2日目は一転して好天に恵まれ、たくさんの家族連れ等が来場し、大盛況となった。

隣の八千代市から連れてきた現役の搾乳牛と子牛が登場し、ほとんどの子供が実物の牛を見るのは初めてで、興味深く見つめていた。農家の方が、農場での牛の様子などを面白く解説してくれるのを、真剣に聞いていた(写真)。

この他にもポニー乗馬・搾乳模擬体験・頭絡投げ・バターづくり教室・牧草に寝てみようコーナーなど盛りだくさんのイベントが行われ、子供も親も大いに楽しんでいた。

また、地元牛乳の試飲や、牧場で作られたジェラート、ヨーグルトやプリン等の販売も行われ、長い行列ができていた。

同会場での開催は3回目だが、恒例の行事となりつつある。生産者も酪農関係者も食品業者も一体となって、牛乳をもっと飲んでもらおうという思いが、来場者や消費者に伝わるイベントとなっている。



収穫量リンゴ増、ミカン大幅減 24年産統計調査

農水省は5月27日、24年産リンゴ・ミカンの結果樹面積、収穫量及び出荷量を公表した。

【リンゴ】

結果樹面積は3万3700haで、前年産より900ha(3%)減少した。収穫量は5200t(1%)増の60万9200t、出荷量は6300t(1%)増の55万4900tだった。10a当たり収量は60kg(3%)上回り、1810kgとなった。

都道府県別の収穫量割合は、青森県61%、長野県17%、岩手県6%となっており、この3県で全国の約8割を占めている。

【ミカン】

結果樹面積は3万4500haで、前年産より900ha(3%)減少した。収穫量は12万2000t(18%)減の55万9600t、出荷量は10万6200t(17%)減の51万900tと、大幅に減少した。10a当たり収量は、夏期の高温で落果や日焼け果が発生したことなどから、310kg(16%)下回り1620kgとなった。

都道府県別の収穫量割合は、和歌山県25%、静岡県16%、愛媛県14%、熊本県11%、佐賀県5%となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

【タマネギ】

作付面積は2万4900haで、600ha(2%)減少した。収穫量は8万t(7%)減の109万4000t、出荷量は6万9800t(7%)減の99万6200tだった。10a当たり収量は210kg(5%)減の4390kgだった。

肥大期に降水量が少なく干ばつ傾向になったことと、収穫時期に雨が多かったことが影響し、歩留まりが低下したためと同省は分析している。

4万3000t(2%)減の212万t、出荷量は1万7000t(1%)減の187万4000tとなった。

10品目の収穫量をみると、秋ニンジン以外の9品目が減少している。秋ニンジンは、北海道で作柄の悪かった前年産に比べ、天候に恵まれ生育が順調だったことなどから、収穫量は1万6800t(10%)増加した。

1頭当たり乳量9500～1万kg目標に 35年までの家畜改良増殖目標(乳用牛)

農水省が公表した新酪肉近の説明会が各地方農政局で開催され、「家畜改良増殖目標」のポイントについて説明があった。乳用牛の改良目標のポイントを紹介する。

コロナ禍以降、特に脱脂粉乳需要の減少により、生乳需給が緩和している。また、乳用牛の1頭当たりの乳量は増加傾向にあるが、供用期間は短縮し、受胎率も低下傾向にある。また、生産者の高齢化などにより労働力不足が顕在化しているほか、温暖化やアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理への対応が求められている。

今後の方向性として次の3点が示された。

《バランス良い泌乳形質の改良と長命連産性の向上》

繁殖性などの他の形質とのバランスを確保した上で、乳量の改良を推進する(表)。

また、将来的な需要の変化に対応するため、乳用牛の能力の底上げが必要となる。繁殖性や耐久性に重点を置いた改良や疾病抵抗性の評価による長命連産性の向上を推進する。

《大型化の抑制・搾乳ロボットの適合性》

極端な大型化を抑制するため、適正な大きさについて検証する。また、搾乳ロボット適合範囲の情報提供を推進する。

《暑熱耐性や飼料利用性等の日本の飼養環境に適した改良》

暑熱耐性などの評価方法の改善を検討するとともに、飼料利用性等の新たな評価を検討する。

また、牛乳・乳製品の需要動向に即した生産を行うため、飼養頭数目標は、総頭数127万頭(現在133.5万頭)、うち2歳以上の雌牛頭数86万頭(現在89万頭)と設定された。

表 乳用雌牛の能力に関する表型値目標数値

	乳量	乳成分		
		乳脂肪	無脂乳固形分	乳たんぱく質
現在	8,809kg (9,956kg)	3.98%	8.79%	3.33%
35年度の目標	9,500kg～10,000kg (10,500～11,000kg)	現在の乳成分率を引き続き維持		

※乳量・乳成分は23年度の数値。

※乳量の()は、牛群検定参加農家の平均値(搾乳牛1頭当たり305日、2回搾乳・自動搾乳の場合)に基づく数値。
(農水省の資料を元に作成)

カラスが嫌がるジェル剤を紹介 飛来防止対策に

鹿児島大学と共立製薬が5月8日に共催したSKLVセミナーで、共立製薬提携アドバイザーの鈴木靖裕氏が「カラスの生態と対策～カラストリビア～」と題して講演を行った。講演の中から、対策の参考となる情報を紹介する。

全国で最も放置樹木が多いのが柿だが、何でも食べるカラスが柿の木に群がる様子が見られなかったことから、カラスは柿が嫌いなのでは、と同氏は推察し、畜舎への侵入対策に水系(建築資材などで使用する黄色い系)を使用する対策を試みた。

黄色の水系と水系の間に黒テグスを張ると効果が絶大だったという。膨張色である黄色の水系が黒テグスをカラスの目には見えなくすることにより、カラスを驚かせる効果などがあったためとみられている。

また、ポリブテン(農業以外にも塗料・化粧品などに使う樹脂で、粘着性がある)できているオレンジ色のジェル状の製品の原液を、カラスが飛来



牛舎の梁にジェル剤を塗った様子

共立製薬提携アドバイザー：鈴木氏の発表資料から

する畜舎の梁に塗布した(写真)。この製品は、①鳥の目には炎のように見える②鳥が嫌う臭い③不味い④粘着性が長持ち—といった効果がある資材で、同氏によるとカラスの飛来は2年以上確認されていない実例がある。

この製品は全くの無毒だが、手に付くとなかなか取れにくいので、使用する際にはポリ手袋の使用が推奨される。

1腹当たり年間離乳頭数27.5頭目標に 35年までの家畜改良増殖目標(豚)

同省による新酪肉近の説明会で説明のあった、豚の改良目標のポイントを紹介する。

家畜伝染性疾病による遺伝資源喪失リスクが高まっており、食料の安全保障の観点等からも、国内で養豚の遺伝資源を確保し、純粋種豚の改良体制を維持していくことが重要となる。また、産肉能力については、ニーズに対応しつつ食味も含めた肉質の更なる改良を目指す。コスト低減に資する改良や衛生管理の取り組みの推進も必要となっている。

今後の方向性として次の3点が示された。

《生産コスト低減に資する繁殖能力の改良》

純粋種豚の1腹当たり育成頭数の向上に着目した改良を強化することで、肥育素豚生産用母豚の繁殖能力をさらに高める(表1)。

このほか、繁殖能力の改良を効率的に進めるため、国産純粋種豚改良協議会等の協力体制を強化する。また、種

豚農家における育種価情報の適切な活用を推進する。

《消費者ニーズに対応する産肉能力の改良》

交配用の雄として主に利用されるデュロック種については、国産豚肉全体の食味の向上を図るため、ロース芯への脂肪交雑の増進等により食味の向上を図る。また、生産コストの低減を図る観点から、各品種とも、1日平均増体量の向上により、肥育豚の出荷日齢の短縮を図る(表2)。

《能力の発現を最大化させる体型の改良》

強健で肢蹄が強く、発育に応じて体各部の均称が取れた体型への改良を図る。肢蹄に関する評価指標の現場での実践に向け、判定の均一化・精度向上を図る。その他、体型に関する簡易な評価が可能な改良形質について引き続き検討する。

また、豚肉の需給動向に即した生産を行うため、飼養頭数目標は、総頭数790万頭(現在880万頭)と設定された。

表1 肥育素豚生産用母豚の能力に関する数値

	1腹当たり生産頭数	育成率	年間分娩回数	1腹当たり年間離乳頭数
現在	11.8頭	90%	2.3回	24.2頭
35年度の目標	12.6頭	95%	2.3回	27.5頭

表2 肥育豚の能力に関する数値

	出荷日齢	出荷体重
現在	184日	114kg
35年度の目標	180日	120kg

※(表1)の育成率・1腹当たり年間離乳頭数は、分娩後3週齢時のものの。算出に用いたデータには海外産ハイブリッドも含む。
※(表1)・(表2)ともに、現在値は2022年度のデータの平均値。
(表1・2ともに農水省の資料を元に作成)

国産チーズスターターの普及を目指す

北海道でワークショップ開催

(公財)日本乳業技術協会は今年も、国産チーズスターター(Jチーズスターター)の普及に向けた、「チーズ工房ワークショップ」を開催する。東京と北海道の2会場で開催することとしており、北海道は7月2日(水)の14～17時に開催予定となっている(東京は終了)。現地参加の申し込みは既に締め切られているが、オンライン参加の場合、誰でも無料で参加することができる。

○オンライン参加は現在も受付中○紹介されるJチーズスターターは、北海道と栃木県の地場の食品から分離した約700菌株の乳酸菌から選抜されたもの。スターターとは、チーズを製造するために必要な微生物(乳酸菌スターター・カビスターター)のこと。今回のワークショップでも、前年に

引き続き、実際にJチーズスターターを使ったチーズを試食できるほか、Jチーズスターターを使って作ったチーズの製造工房関係者の話しなどを聞くこともできる。

○国産の材料で美味しいチーズを○「Jチーズスターターを使って原料から国産のチーズを作りたい」という全てのチーズ製造者に「国産ナチュラルチーズ高付加価値化推進事業」の応募資格があり、抽選に当選したチーズ工房は、この事業による①Jチーズスターターの無償提供②原料生乳代助成—などのサポートが受けられるほか、試作したチーズの成分検査や官能評価も無料で受けることができる。

ワークショップの申し込みは、添付のQRコードまたは、同協会ホームページから行うことができる。



ワークショップ(オンライン)の参加申し込みはこちらから

飼育頭数や肉質、肥育期間などを設定 35年までの家畜改良増殖目標(肉用牛)

農水省は新酪肉近の公表と同時に、10年後の家畜の能力などの目標を設定した「家畜改良増殖目標」を示した。ここでは、肉用牛の改良目標のポイントを紹介する。

生産現場の多くで脂肪交雑を重視した和牛生産が盛んとなっている中で、赤身肉などの需要増など消費者ニーズが多様化しているほか、和牛全体での近交係数が上昇し、遺伝的多様性の喪失が懸念されている。また、飼料価格の高止まりなどで生産コストが増加する一方、牛肉需要の減退で枝肉価格は低迷しており、より効率的な肉用牛生

産が求められている。

これらの課題に対し、今後の方向性として、次の3点が示された。

《食味の向上に重点を置いた種畜の選抜・利用》

脂肪の質などの食味の向上に重点を置いた種雄牛及び繁殖雌牛の選抜・利用を推進する。食味や脂肪交雑の形状に関する指標の研究を進め、これを改良の指標として取り入れるための評価手法（例：粗ザシよりも小ザシを高く評価）を検討する。

《飼料利用性の指標化・実用化》
少ない飼料摂取量で効率よく成長で

え置きとなった。

生産者積立金は1業務対象年間（5年）に一度定められ、国1／2、県1／4、生産者1／4の割合で負担している。25年4月1日登録分から29年度末までの生産者負担分の金額は、黒毛和種が400円（前期同）、乳用種が1250円（1700円）、交雑種が600円（800円）で、乳用種と交雑種が減額となった。

優良和子牛生産推進緊急支援事業
24年度に臨時対策で、1年限りで設

子牛基金など3事業 概要の紹介

前号で告知した子牛基金など3事業の詳細について紹介する。

子牛基金

肉用子牛生産者補給金制度（子牛基金）による補給金の交付の基準となる保証基準価格は、毎年度設定される。前年度より、黒毛和種で基準価格が引き上げられたが、乳用種と交雑種は据

「骨格粗大症」難産の一因に 農水省 適切利用を呼びかけ

農水省より4月1日付けで、肉用牛の遺伝的不良形質に対する対応方針に基づき「骨格粗大症（SD）」のプロファイルシートが作成、公表された。

骨格粗大症の遺伝的形質は、これまで枝肉重量を増加させる経済性質として改良に利用されてきたが、骨格粗大の原因になる。保因個体の増体はよくなるとされるが、発症個体では骨端肥大や四肢関節肥大で、出生時に過大子による難産の事例が報告されている。

今回の公表について、改良関係機関や生産者に対し、骨格粗大症が発症しないよう、保因牛同士の交配を避けるように同省は呼び掛けている。図のとおり、保因牛同士を交配しなければ、発生牛は産まれず、引き続き枝肉重量

の増加が期待できる。

保因牛同士の交配を避ける取り組みとして、同省は種雄牛の保因状況の確認を求めている。種付けを考えている種雄牛の所有者に問い合わせて、保因牛かどうかを確認する。

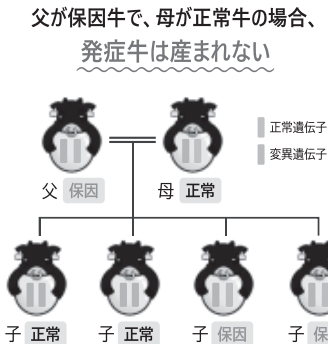
家畜改良事業団や一部の県などでは、すでにホームページなどで所有する種雄牛の保因状況を公開しており、確認ができる。

また、繁殖雌牛を飼養している場合は、遺伝子型検査を依頼して保因牛かどうかを確認する。（依頼先：（一社）家畜改良事業団遺伝検査部TEL：027—269—2441）この2点の結果を踏まえ、保因牛同士での交配をしないように注意したい。

骨格粗大症(SD)に関する交配の考え方

保因牛同士で交配しなければ発症牛は産まれません。

父牛もしくは母牛の一方が保因牛で、もう一方が正常牛であれば、産まれる子牛は、枝肉重量の増加が期待できます。



農水省の「骨格粗大症（SD）の正しい理解と利用について」の資料から引用

表 去勢肥育牛の能力に関する目標数値

		出荷体重	出荷月齢	枝肉重量	1日平均増体重	肉質等級
現在		kg	ヵ月	kg	kg	
	黒毛和種	808	29.5	516	0.81	4.5
	乳用種	781	19.3	446	1.28	2.0
	交雑種	831	25.8	544	0.96	3.0
目標 (35年度)	黒毛和種	775	27.0	515(562)	0.86	4
	乳用種	785	18.0	455(488)	1.45	2
	交雑種	835	24.0	543(583)	1.05	3

※目標数値は、短期肥育・早期出荷を目指したもの。

農水省の資料を元に作成

※目標の欄の（ ）内は、現在値の肥育終了月齢に推計した枝肉重量。

きる目安である、飼料利用性の指標化を進め、新たな改良形質に着目した種雄牛造成等を推進する。

《短期肥育・早期出荷の推進》
適度な脂肪交雑で生産コストの低減が期待できる短期肥育・早期出荷の普及に向けた実証に取り組み、生産現場への定着を推進する（表）。また、早

期出荷牛肉に関するデータ収集・分析を行い、流通と消費者サイドの認知度向上と理解醸成を促進する。

ほか、牛肉の需要動向から、飼養頭数目標が総頭数290万頭（現在268万頭）、うち肉専用種219万頭（189万頭）、乳用種・交雑種71万頭（79万頭）と設定された。

けられた同事業が今年度も延長して実施される。全品種の発動基準が前年度よりも1万円ずつ引き上げられた。

和子牛産地基盤強化緊急特別対策事業
今年度到新設された事業で、優良和子牛生産推進緊急支援事業に加え、和子牛のブロック別平均価格が発動基準

全国規模の受胎率調査結果 22、23年次の延べ頭数受胎率

（一社）日本家畜人工授精師協会は、雌牛の全国規模の受胎率調査を実施し、23年次（速報値）と22年次（確定値）の受胎率データを3月末に公表した（表）。

受胎率の調査は、過去10年、全国規模の公的数値となる受胎率データが存在せず、23年度より調査が始められた（※22年度は各県の授精師協会等と調整を行い、23年度より22年次分も含め

たデータの収集を開始した）。今後は、都道府県授精師協会等と協力し、各年次に実施した人工授精、受精卵移植の受胎率データを収集し取りまとめ、今後、年度末に公表される。

受胎率は、その年にすべての雌牛に授精、移植した延べ頭数による受胎頭数から算出したもの。23年次は集計時期が間に合わない県などの事情から速報値としている。

人工授精	雌の品種	精液の品種	23年次(速報値)		22年次(確定値)	
			延頭数	受胎率	延頭数	受胎率
	乳用種	乳用種(通常)	335,777	46.4%	363,551	46.5%
		乳用種(選別)	191,281	46.7%	169,931	47.4%
		肉用種	260,998	49.6%	268,006	50.4%
肉用種	肉用種	174,081	55.1%	278,945	52.0%	
体内受精卵移植	雌の品種	受精卵の品種	23年次(速報値)		22年次(確定値)	
			延頭数	受胎率	延頭数	受胎率
	乳用種	乳用種	3,397	46.3%	3,949	47.0%
		肉用種	37,304	49.0%	49,578	51.0%
		肉用種	11,043	47.0%	14,204	43.7%
体外受精卵移植	雌の品種	受精卵の品種	23年次(速報値)		22年次(確定値)	
			延頭数	受胎率	延頭数	受胎率
	乳用種	乳用種	2,379	39.6%	1,415	39.5%
		肉用種	22,316	38.8%	18,558	41.0%
		肉用種	2,353	39.6%	1,625	40.5%

（一社）日本家畜人工授精師協会の資料を元に作成

黒毛(北海道)、乳用種発動 牛マルキン4月分

農畜産業振興機構は6月11日、肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価（25年4月分、概算払い）を公表した。

乳用種で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、交付が行われる。

肉専用種は北海道でのみ発動した。今月も交雑種での発動はなかった。

交付金単価（1頭当たり）は、乳用種は1万4475.8円（前月は2万1478.5円、確定値）となっている。

前月分と比べると、乳用種は販売価格と素畜費がそれぞれ同様に上昇し、差額はほとんど変わらなかったが、概算払いのため減額となった。

ハラル食品を展示・販売

農水省 日本での認知度向上を目指す

農水省は5月12～23日まで、ハラル食品について紹介する展示を同省の「消費者の部屋」で開催した。ハラルは、イスラム法で「許されたもの」を意味し、豚肉やアルコールを使わない同教の基準を満たした食品のこと。

日本の農林水産物・食品の世界への輸出増加や、訪日外国人の増加に伴い、ハラル食品への需要・関心が高まっている。2030年に5兆円という政府の輸出額目標を達成するためにもハラル市場がカギになるとされている。

展示では、「ハラル食品とは何か」から、国内で製造されているハラル

食品などが紹介された。また、期間中は同省内にある食堂でムスリムフレンドリー（ハラル認証の取得に関わらず、可能な限り配慮・対応をする取り組み）のカレーやラーメンが提供されたほか、売店では全国各地から取り寄せたハラル商品を販売した。

同省輸出・国際局の担当者によると、日本ではハラルの知名度が低いため、認知度向上を目的に展示を行ったが、大々的に紹介するのは今回が初めて。例えば、インドネシア市場ではハラルに対応した韓国の商品が多く、韓国は取り組みが進んでいるそうだ。



上：ハラルについてのくわしい解説がパネルに
左下：売店のハラル商品コーナー、右下：ハラル対応を示すマークがある

牛枝肉

焼肉需要アップに期待も、頭数増で弱もちあい

夏の猛暑に向け、焼肉需要の大幅アップに期待したいが、和牛、交雑種はやや頭数増加が見込まれ、弱もちあいが予想される。

【乳去勢】5月の東京食肉市場の乳牛去勢B2の税込み枝肉平均単価（速報値）は、1177円（前年同月比119%）となり、前月より8円下がった。

6月に入っても頭数は減少傾向にあり、相場も1200円を超える動きとなっている。

【F₁去勢】5月の東京食肉市場の交雑種去勢の税込み枝肉平均単価は、B3が1625円（同103%）、B2が1525円（同107%）だった。前月に比べ、B3が13円増、B2も29円増と、強もちあいで推移となった。

6月になると、やや頭数が増加することもあり、B3で1600円を切る展開となっている。

【和去勢】5月の東京食肉市場の和牛去勢の税込み枝肉平均単価はA4が2266円（同107%）、A3が2163円（同110%）だった。前月に比べ、A4が3円下がり、A3は21円上がった。

6月に入ると、A4で2200円を切る展開となっており、頭数はわずかに増加する見込みで、弱もちあいの推移となっている。

【出荷頭数】6月の出荷頭数は、和牛4万2000頭（同101%）、交雑種2万300頭（同103%）、乳用種2万2500頭（同99%）と、和牛・交雑種はやや増加する見込み。

【輸入量】農畜産業振興機構は6月の冷蔵・冷凍品の輸入量を総量で4万4200t（同93%）と予測。内訳は、冷

蔵品1万5800t（同89%）、冷凍品が2万8400t（同95%）。ほとんどの輸入先で、冷蔵・冷凍品ともに前年を下回ると予測される。

向こう1ヵ月の東京食肉市場の税込み枝肉平均単価は、乳去勢B2が1150～1250円、F₁去勢B4が1600～1700円、同B3が1500～1600円、同B2が1450～1550円、和牛去勢A4が2150～2250円、同A3が2050～2150円での推移か。

豚枝肉

相場は上昇傾向も、出荷頭数増加が影響するか

5月の東京食肉市場の豚枝肉税込み平均単価は、上物659円（前年同月比92%）、中物は626円（同90%）となった。前月に比べ上物が60円、中物も51円増と、好調な動きとなった。

相場は右肩上がりにも上昇し、6月に入ると、上物で800円を超える展開となってきた。中物も700円後半での推移となり800円超の日も出た。時期的にも相

畜産物需給見通し

場は上昇傾向に向かうと見られるが、頭数が増加傾向となっている。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、6月は130万頭（前年同月比109%）と、前年より大きく増加する予測となっている。

農畜産業振興機構の需給予測によると、6月の冷蔵・冷

凍品の輸入量は総量で8万7500t（同107%）と、前年よりかなり増加する見込み。内訳は、冷蔵品3万3000t（同109%）、冷凍品5万4500t（同106%）。冷凍品は、現地相場の軟化等でスペイン産の増加が見込まれる。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が750～850円、中物も700～800円と、強もちあいの展開となるか。

素牛 スモール

乳雄・F₁ともスモール価格の高騰続く展開に

【スモール】5月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格（農畜産業振興機構調べ、月末の取引結果を除く暫定値）は、乳雄が10万4366円（前年同月比117%）、F₁（雄雌含む）は23万8092円（同144%）と、前月に比べ、乳雄は1万7518円増、F₁は1万9429円増と、ともに続騰した。

乳雄は7ヵ月連続の上昇となり、6月に入っても北海道で14万円を超える市場も出てきた。

F₁も頭数減の影響が大きく、本州では25万円を超える市場が多くなっている。頭数減はしばらく続くが、肥育農家の買い控えが増えてきそう。

【乳素牛】5月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格（左表、月末の取引結果を除く暫定値）は、乳去勢が20万4108円（同113%）、F₁去勢は39万7327円（同113%）だった。前月に比べ乳去勢は1084円減、F₁去勢も1万3270円下がった。

乳去勢・F₁去勢ともに、5月は前月よりやや頭数は増加したが、今後は頭数減となってくる見込み。

【和子牛】5月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格（同）は、71万8388円（同120%）で、前月より9517円下がった。

5月の上場頭数は、前月より1500頭ほど多くなっているが、今後頭数は乳用種ほどではないが減少傾向にあるので、相場は強もちあいか。

5月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブ ロ ッ ク	品 種	頭 数		重 量		1頭当たり金額		円/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北 海 道	乳去	658	615	318	305	202,084	209,599	635	687
	F ₁ 去	2,484	2,368	344	342	391,310	402,634	1,138	1,177
	和去	2,764	2,577	343	342	762,741	789,056	2,224	2,307
東 北	乳去	4	1	267	123	160,875	37,400	603	304
	F ₁ 去	6	2	312	321	333,850	217,800	1,070	679
	和去	2,735	2,449	331	328	677,715	668,818	2,047	2,039
関 東	乳去	42	6	292	239	289,274	82,317	991	345
	F ₁ 去	168	159	357	353	409,128	409,373	1,147	1,158
	和去	823	955	335	328	746,317	740,915	2,230	2,258
北 陸	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F ₁ 去	—	—	—	—	—	—	—	—
	和去	—	177	—	296	—	620,095	—	2,092
東 海	乳去	14	—	302	—	130,036	—	431	—
	F ₁ 去	70	57	329	320	405,664	454,030	1,232	1,419
	和去	449	229	295	272	734,489	732,317	2,490	2,693
近 畿	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F ₁ 去	—	—	—	—	—	—	—	—
	和去	320	354	265	265	1,089,048	1,060,173	4,110	4,008
中 四 国	乳去	44	35	313	281	188,325	171,820	602	612
	F ₁ 去	315	284	333	327	423,151	430,689	1,272	1,317
	和去	784	969	324	271	661,988	703,573	2,044	2,600
九州・沖縄	乳去	3	4	246	208	80,667	45,925	328	221
	F ₁ 去	303	358	335	328	455,443	442,040	1,358	1,348
	和去	9,425	8,440	308	304	704,128	716,023	2,286	2,353
全 国	乳去	765	661	315	302	204,069	205,192	648	679
	F ₁ 去	3,321	3,228	342	339	398,617	410,597	1,166	1,211
	和去	17,636	16,154	318	314	717,146	727,905	2,255	2,318

注：（独）農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。
価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。－は上場がなかったことを示す。
関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。